

多国籍企業(ダウ・ケミカル)の横暴は許さない！



ザ・ダウ・ケミカル・カンパニー（ダウ・ケミカル）は、アメリカ合衆国ミシガン州ミッドランドに本拠地を置く世界最大級の総合化学メーカーです。世界各地に会社をもち、ダウ・グループを形成。日本アクリル化学（株）はその一つの工場です。車や建築物の塗料や紙などの塗工材などの原料となるアクリル樹脂を製造しています。

工場は1962年に稼働を開始し、重大事故もなく、ダウ・グループ内でもトップクラスの品質の高い製品を製造し、古い工場ではあるが品質の高さはその工場で働く労働者の質の高さでもあります。日本アクリル化学はダウの子会社であります。無借金経営を続け、毎年純利益を出し、親会社に対し多額の貸付まで行うほどの超優良企業でした。

多国籍企業ダウ・ケミカルによる一方的な工場閉鎖・全員解雇は許されない!!

ダウ・ケミカル、ダウ・ケミカル日本（株）、日本アクリル化学（株）は、2019年6月、全労連・全国一般日本アクリル支部に対し、『名古屋工場の操業継続か閉鎖』を提案しつつも、会社は『工場を閉鎖し、主な生産拠点を台湾および他の海外工場へ移管』することに優位性があると提案、その後8回にわたる交渉では、安全の為の投資を回収出来る見込みがない。投資金額の詳細については企業秘密だから開示できないと十分な説明がないまま、名古屋工場閉鎖を決定し、2020年9月末には全国一般の組合員10人の全員解雇を強行、その一方で「早期退職制度に合意する第2組合員には解雇予告を取り消し、雇用を4ヶ月間延長し、賃金を支払い、特別退職金を上積みする。」という全国一般組合員との差別を図り、組合切り崩し攻撃を行ってきました。



名古屋地裁前



ダウ日本/本社前宣伝

名古屋地方裁判所と東京都労働委員会へ訴え

組合員10人は2020年10月7日、名古屋地方裁判所に、解雇無効・賃金仮払の仮処分と本裁判をおこし、間もなく2年が経過しようとしています。名古屋地方裁判所での会社側書面では、閉鎖か存続かの提案前から閉鎖の決定をしていたことが明らかとなりました。ダウは嘘をついてまでもなりふり構わず工場閉鎖を強行しました。東京都労働委員会においては、全国一般中央本部、全国一般愛知地方本部、日本アクリル支部として、2020年11月4日に差別解雇についての不当労働行為救済申立を行い現在も係争中となっています。

7/20・名古屋地裁仮処分で不当な決定。

解雇無効・賃金仮払の仮処分を求め、1年9ヶ月もかけて出た決定は不当にも「解雇の濫用には当たらない」と組合の主張を全く認めず、全て却下するという決定が下されました。

組合としては、本訴での逆転勝利に向けて闘いを強化し、多国籍企業ダウ・ケミカルの横暴と身勝手な工場閉鎖・解雇に対して責任追及の手を緩めず闘っていきます。

@akuriru_kumiai



—Twitter—

全国の仲間の皆さん、アクリル争議に支援を!!

ご支援ご協力いただける方は、下記 URL のホームページから署名をダウンロード願います。

<http://www.roren.net/ippanaichi/>